



表玄関の石段は、大正時代のものが今でも使われています。



ホームの天井には、大正時代の木組みが残されています。



- 文京町一丁目7-1
- JR高松駅から普通列車で約60分。  
駅前の道は片原町通り。
- 駐車場／あり

## 激動の時代をこえ、 今も使われ続けるまちの玄関

JR善通寺駅は明治22（1889）年5月、讃岐鉄道会社の駅として使われはじめて以来、この場所にあります。

当時は琴平～多度津～丸亀間の約15.5kmの鉄道で善通寺や金刀比羅宮への参拝客が多く、巡拝鉄道とも呼ばれていました。そのため「上り列車」は、今とは逆の琴平方面行きのことでした。

その後、明治39（1906）年に国有鉄道法により国に買収され、大正11（1922）年秋には陸軍大演習の開催に合わせて駅舎を大改

築しました。さらに平成3（1991）年に改築し、屋根が寄棟造になったものの、表玄関やホームには大正の頃の木組みがそのまま残されています。平成14（2002）年に駅の本屋、1番ホーム上屋、2番ホーム上屋、跨線橋が国の登録有形文化財に指定され、また、善通寺駅は平成21（2009）年に経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されました。

大正時代に造られた石段を踏み駅舎を出ると、町並みのむこうに五岳山の緑が望めます。さあ、善通寺市の時間旅行に踏み出しましょう。



ホームの北端に架かる跨線橋は明治22（1889）年のもので、骨組みには輸入されたレール材（Barrow Steel製）が使われています。大正時代の構造がそのまま残されています。